

# 名古屋 文化情報

2019  
9・10  
September / October

No. 388

NAGOYA  
Cultural  
Information

随想／岡田 靖(木製彫刻保存修復家)

視点／名古屋の演劇シーンを彩る小劇場演劇

この人と…／瀬戸 和夫(セントラル愛知交響楽団 常務理事)

いとしのサブカル／島田 尚幸(あいち妖怪保存会 共同代表)



2019

9・10

September / October

Contents

名古屋市民文芸祭 小・中学生の部 受賞作品…………… 2

随想 根っこのない木がないように  
岡田 靖(木製彫刻保存修復家)…………… 3

視点  
名古屋の演劇シーンを彩る小劇場演劇…………… 4

この人と…  
瀬戸 和夫(セントラル愛知交響楽団 常務理事)…………… 6

ピックアップ 好評! 5/RホールのY♡SEコン…………… 10

いとしのサブカル  
島田 尚幸(あいち妖怪保存会 共同代表)…………… 11

おしらせ…………… 12

「なごや文化情報」編集委員

- 上野 茂 (ナゴヤ劇場ジャーナル編集長)
- 杵屋六春 (長唄・唄方 名古屋音楽大学講師)
- 瀧津清仁 (指揮者)
- 森本悟郎 (表現研究・批評)
- 山本直子 (編集・出版 有限会社ゆいぽおと代表)
- 吉田明子 (人形劇団むすび座制作部長)

表紙

作品  
のう  
囊 18-16 nurari

(2018年/陶(黒陶)/W39×D40×H114cm)

粘土でつくる形態は囊状で、よるべのないもの。様々な外圧により歪んだり、撓んだりします。その様子を現すことで、うつろいゆく粒子(物質)や時を実感しようとしています。



撮影：斎城 卓

伊村 俊見 (いむら としみ)

- 1961年 大阪市に生まれる
- 1984年 金沢美術工芸大学美術学科彫刻専攻卒業
- 1985年 岐阜県立多治見工業高等学校窯業専攻科修了
- 1995年 第4回国際陶磁器展美濃'95陶芸部門・グランプリ受賞
- 2004年 非情のオブジェ現代工芸の11人 東京国立近代美術館工芸館

「2018年 名古屋市民文芸祭」  
(第六九回名古屋短詩型文学祭)小・中学生の部  
川柳の部 受賞作品より ※受賞時の学校・学年で掲載しています。

◆市長賞◆ 梶山女学園大学附属小学校6年 松本 依央梨

新しい明日が笑顔でやってくる

◆市会議長賞◆ 名古屋市立供米田中学校1年 山田 裕帆

たくさん笑顔で作る仲間の輪

◆市教育委員会賞◆ 梶山女学園大学附属小学校5年 山本 紗桜里

心の箱そっと思い出してしまうんだ

◆市文化振興事業団賞◆ 名古屋市立供米田中学校2年 山田 奈摘

遠くまで私の音色響かせる

◆名古屋短詩型文学連盟賞◆ 東海市立加木屋小学校2年 武藤 功明

ひゃっかじてんおかねのこともしらべます

◆中日賞◆ 東海市立大田小学校3年 森岡 茉優

くもが行くどこへ行くのか聞きたいな

## 随想

## 根っこのない木がないように



おかだ やすし  
岡田 靖(木製彫刻保存修復家)

1975年愛知県蒲郡市三谷町生まれ。1998年東京藝術大学美術学部彫刻科卒業、同大学大学院文化財保存学保存修復彫刻専攻博士後期課程を修了し、博士号（文化財）取得。同研究室の非常勤講師を務める。イタリア・フィレンツェの国立修復研究所での保存修復の研究を経て、帰国後、東北芸術工科大学文化財保存修復研究センターの専任講師・研究員として地域の文化財保護活動に従事する。2015年に名古屋市にて独立し、一般社団法人木文研の代表理事を務める。また、JICAの「大エジプト博物館合同保存修復プロジェクト」にて、ツタンカーメン王のチャリオットや儀式用ベッドの木製品保存修復に携わる。

我々は歴史の上に立っている。根っこのない木がないように、人も連綿と続く歴史のつながりの中で生きている。文化財は、そのような人々の歴史を伝える存在である。

皆が知っている国宝や重要文化財に指定されている文化財は、各時代の主流を今に伝えてくれる。しかし、全国各地には、文化財の指定を受けていない名もない文化財が膨大な量存在している。それらは、時代ごとの社会の変容の中で、時に輝き、時に埋もれながらも今に遺っている。そのような地域に遺る名もなき文化財を丹念に調べていくと、文化財たちは饒舌に自らが辿った歴史を語り出し、かつてあった地域の歴史を我々に教えてくれるのである。

私の専門は木製文化財の保存修復である。保存修復というとモノをなおす仕事の主であると思われるだろうが、なおしているのはモノだけではない。本当になおしたいのは、モノが持っていた価値そのものである。価値を知るためには、モノそのものを多角的に調べ、そのモノが造られ、今に伝えられてきた背景を調べる必要がある。すでに失われてしまったモノの声を聞くことはできないが、その周辺に存在したモノから聞き取りを行うと、失われたモノの輪郭だけはおぼろげながら知ることができる。長老の言葉には貴重な人生訓が含まれているように、人よりも長生きしている文化財が発する言葉には、先人達の知恵が凝縮されている。だからこそ保存、継承していく必要がある

のだ。そして修復とは、文化財が持つ多様な価値をできるだけ損なうことなく、より長く文化財が生きていくために必要な延命処置を行う行為なのである。

私が現在保存修復に関わっている古代エジプトのツタンカーメン王の木製遺物も、奈良県で調査をさせていただいている平安時代や鎌倉時代の仏像も、復元を目指して制作している琉球王家の菩提寺に祀られていた仁王像も、先住地山形で調査や保存修復を行った文化財指定を受けていない仏像たちも、全て等しく人類の文化を後世に伝える財産なのである。

蒲郡で生まれ、名古屋で育ち、東京の大学で彫刻や文化財保存修復を学んだ私にも、わずかながら44年の歴史がある。私の人生の中で出会ってきた子どもの頃の思い出の品や愛着を寄せているモノ達も、子どもの頃にひいた三谷祭りの山車や、覚えた踊りや祭り囃子も、私にとっては大切な文化財なのである。

ツタンカーメンの秘宝は世界中の人々が守り伝えてくれるけれど、私の思い出の品々は私が大切にしなければ捨てられるようなモノ達である。しかし、私の人生においてはかけがえのない存在であり、これからの人生を生きる力を与えてくれる存在なのである。

常に歴史文化の蓄積の中から、新たな時代が生まれていくのではないだろうか。

# 名古屋の演劇シーンを彩る 小劇場演劇

小劇場の演劇集団は大学の演劇部卒業生や若い役者達、劇作家・演出家などが中心となり旗揚げされることが多く、新しい集団が次々と生まれる反面、数年で活動休止や解散する集団も少なくない。そんな中で名古屋を拠点に10年から20年にわたり活発な活動を続けている演劇集団と近年目覚ましい活躍を見せている個人を紹介する。

他にも紹介すべき団体・個人もあるだろうが、今回はご容赦を。 (まとめ: 吉田 明子)

## 小劇場（小劇場演劇）とは

小劇場は小さな劇場を意味するが、小劇場を拠点とする演劇集団及びその活動を指すこともある。1960年代に誕生し、当初は思想性や実践性が強くアンクラ演劇とも呼ばれたが、次第にエンターテインメント性も取り入れられるようになっていった。

劇作家・演出家を中心に組織された小規模な集団であることが多く、観客も商業演劇とは異なり団体客ではなく個人客が中心である。また、近年では劇団の枠にとらわれず公演ごとにスタッフ・キャストが集まるプロデュース公演やユニット形式の公演も盛んである。

## 1998年旗揚げの劇団あおきりみかん

1998年南山大学演劇部のOB、OGを中心に旗揚げ。奇抜なシチュエーションから繰り出される『会話』と『関係』のズレを中心とした喜劇を上演。

愛知県芸術劇場演劇フェスティバル、名古屋市民芸術祭、シアターグリーンフェスティバルなど県内の主だったコンクールの他、全国のコンクールで優勝多数。

作・演出の鹿目由紀はテレビドラマや他劇団への執筆も多数。2019年中村雅俊45thアニバーサリー公演「勝小吉伝～ああわが人生 最良の今日～」、舞台「おそ松さん on STAGE～SIX MEN'S SHOW TIME 3～」などを執筆している。俳優陣も舞台・テレビ等多方面に活躍。2015年、川本麻里那が名古屋演劇杯・最優秀俳優賞を受賞。

鹿目の主な受賞歴—2009・2010年日本演出者協会・若手演出家コンクール優秀賞など、2010年第26回名古屋市文化振興事業団芸術創造賞、2010年第16回日本劇作家協会新人戯曲賞、2011年愛知県芸術文化選奨・文化新人賞、2014年松原英治・若尾正也記念演劇賞。

鹿目は2019年8月より2年の休団を発表。劇団員の松井



真人は「劇団あおきりみかんは、より良い芝居をつくり続けることを目標に喜劇に取り組んでいます。劇団の文化芸術を皆さんと分かち合えた

ら嬉しいですよ」と語る。

①団員数：21名 ②年間公演数：本公演のツアー2回および企画公演数回 ③1公演の観客数：1,500～2,500名

## 2000年以降に旗揚げした集団

<オイスターズ>

2005年「ジ・オイスターズ」として活動を始め、2008年に改名と劇団化。代表は俳優の中尾達也。座付の作・演出家は平塚直隆。



こまばアゴラ劇場サマーフェスティバル<汎-PAN2011>への参加を機に東京公演を開始。「ドレミの歌」「日本語私辞典」では、札幌・仙台・新潟・京都・広島・福岡・名古屋ツアー公演を敢行。「トラックメロウ」では初の海外公演で、韓国ソウル・チョンジュの2都市でフェスティバルに招へいされる。MITAKA “next” Selectionや三重県文化会館で新作をつくる全国公募企画「Mゲキ→ネクスト」、松本演劇祭参加など現在も精力的に活動中。

『過剰なまでに会話劇』をテーマに、あらゆる舞台演出を極力会話だけで表現する試みに注力している。全ての表現を会話に特化させていくことで、日本語の豊かさや曖昧さを明確にし、思い込みによるすれ違いから生じる『笑い』を生み出している。

①団員数：12名 ②年間公演数：2～3公演 ③1公演の観客数：約500名 ④次回公演：第23回公演「みんなの力」2019年10月4日～14日 損保ジャパン日本興亜人形劇場 ひまわりホール

<劇団アルクシアター>

劇作家・作曲家・演出家のやとみまたはちが2006年に始めた「アルクシアター・プロデュース」を母体に2008年に旗揚げ。

音楽とダンスを活用して演劇の可能性にチ



チャレンジし続けており、劇団の全作品の脚本・作曲・演出を手がけるやとみを中心に、様々な年代の劇団員が社会的テーマ性のある作品に取り組む。

直近の上演作は襲来より60年を迎える伊勢湾台風を題材にした「空が落ちてきた日」。甚大な被害を及ぼした災害を舞台で表現することで防災啓発も行う。

①団員数：25名 ②年間公演数：2～3公演 ③1公演の観客数：約1,000名

#### <星の女子さん>

渡山博崇が劇作・演出を手がけるオリジナル作品を上演することを主目的に活動。2008年第1回本公演を行う。



寓話と現代社会が共存する不可思議な世界

に生きる人（や人でないもの）のドラマを描く。無機質でおかしみのある言葉遊びが特徴の会話劇を得意とする。

2012年「AAFリージョナル・シアター 2012～京都と愛知vol.2～」に参加、2013年北村想の演劇塾「SLOFT / N」との合同公演や、劇作家とつくる短編人形劇への参加など外部活動も積極的に行っている。

①団員数：3名 ②年間公演数：1～2公演 ③1公演の観客数：300～400名程度 ④次回公演：星の女子さん ⑤REシリーズ「水辺のメリー」 2019年11月14日～17日七ツ寺共同スタジオ

#### <オレンヂスタ>

2009年「名古屋大学劇団新生」出身の作・演出／ニノキノコスターと主宰・プロデューサー／佐和ぐりこにより設立。



コンテンポラリーダ

ンスとワンシチュエーション会話劇の融合や、食器を用いた人形劇、パネルシアターと演劇の融合など、実験的な作風で新しい魅力を発信し続けている。

「MANGAMAN」が2018年愛知人形劇センター主催のP新人賞大賞・観客賞をW受賞。今年で劇団結成10周年を迎え記念イベントを実施した。

①団員数：13名 ②年間公演数：1～2公演 ③1公演の観客数：200～800名程度 ④次回公演：第9回公演「黒い砂礫」 2020年3月14日～22日 七ツ寺共同スタジオ

### めざましい活躍を見せる八代と刈馬

#### <八代将弥>

2010年に旗揚げしたroom16の旗揚げメンバーであり劇作家・演出家・俳優。「時計仕掛けの始まりと80グラムシテ」がG/PITチャレンジフェスティバル2011大賞受賞。

2012年夏、「沈黙タイ」では1ヶ月公演を敢行。同年「劇王子」に参戦し決勝進出。2014年「ラクダ」が名古屋演劇杯大賞を受賞。2016年あいちトリエンナーレ舞台芸術公募プログラムに選出。



ここ3年、団体としての公演は行わず、八代は客演として年間約10本舞台に立つ。それまでは年間約2作品のペースで公演し、観客数は劇場のキャパシティにより200～700名。過去4公演のチケットは完売した。八代は「現在はそれぞれが個人で活動し、“来たるべき日”に向け準備中で、次回公演は観客2,000人を目指す」と語る。

2016年日本劇作家協会東海支部が創設した第1回俳優A賞を受賞、2018年には日本演出者協会・若手演出家コンクール優秀賞受賞。近年「16号室」という団体を立ち上げ、過去にroom16で上演した作品の再演など精力的に活動中。10月には「沈黙タイ」を関東圏で活動する俳優・スタッフと再構築し東京で上演予定。岸田國士戯曲賞を目標に活動中。

#### <刈馬カオス>

劇作家・演出家。2003年劇団「メガトン・ロマンチック」を始動。2007年「モンスターとしての私」で第18回テアトロ新人戯曲賞佳作。



2012年、刈馬カオスの劇

作・演出作品を上演することを主目的にソロユニット「刈馬演劇設計社」を立ち上げ精力的に活動中。劇団の枠に縛られず、作品ごとに俳優を集め、年に1～2回公演を行っており、1公演の観客数は550～650名。「社会的な題材を用いた、シビアなシチュエーションで展開されるモノガタリを軸にしつつ、『重くても暗くはない』シリアス・エンターテインメントを創作しています」と刈馬。

2015年「クラッシュ・ワルツ」で第19回日本劇作家協会新人戯曲賞、名古屋市民芸術祭2015芸術祭賞、平成27年度愛知県芸術文化選奨・文化新人賞を受賞。

次回公演は、PLAN-14「異邦人の庭」2019年11月15日～17日G/PIT。

本年7月に上演された「神様から遠く離れて」の公演初日、会場は20～30代を中心に満席で10代の姿も。緻密に作り込まれた作品は見応えがあり、世代を問わず心に響く舞台であった。

#### まとめ

商業演劇や新劇では観客の高齢化が進み、若者の演劇離れが指摘されているが、小劇場には当てはまらないようだ。若者の心をつかむ舞台となっているのであろう。今回紹介できなかった集団も含め、名古屋の小劇場の活動がより充実し豊かな演劇シーンを創り出していくことを期待する。

# この人と...

セントラル愛知交響楽団 常務理事

せ と か ず お

## 瀬戸 和夫さん

### セントラル愛知交響楽団とともに歩む音楽人生

1983年に設立されたセントラル愛知交響楽団（前身名：ナゴヤシティ管弦楽団）のクラリネット奏者として、さらに奏者引退後も楽団の常務理事として活躍する瀬戸和夫さんにお話を伺った。インタビュー当日は筆者がセントラル愛知交響楽団の公演を指揮したため、興奮冷めやらぬ終演後にお話を伺った。筆者が10年前に瀬戸さんと共演した際にバランスやインザッツのタイミングについて話し合ったことを覚えている。この日は客席後方で演奏を見守る姿を舞台上から拝見し時の流れを感じた。ユーモアに溢れ、独特のハスキーで早口な語り口を誌面で表現するのは困難ではあるが、瀬戸さんのお人柄の一片を感じ取っていただければ幸いである。（聞き手：濱津 清仁）

### 音楽の道へのきっかけは小学校のリコーダー

瀬戸和夫さんは1952年8月22日、広島県福山市に三人兄弟の末っ子として生まれた。特別音楽に親しむといった家庭環境でもなく、兄は書道、姉はソロバンを習い、瀬戸さんも外を遊びまわる毎日を過ごしたとのこと。ただ、歌うことは大好きで、家に帰れば裸電球をマイク代わりによく歌を歌った。ちなみに子どもの頃は、近所でも評判の“天使の歌声”だったと瀬戸さんは語る。小学校でも音楽の授業に興味がわかず、いきおい成績もよくなかった。4年生でリコーダーの授業が始まって（現在は3年生から始まる）全く吹くこともなく、音楽の先生もリコーダーが吹けなかったためか注意もされず、リコーダーでチャンバラごっこをして遊んでいた。

しかし、「小学5年生の3学期に先生が何を思ったのか、リコーダーのテストをすることになりました。

それで初めて友達に指使いを一から教えてもらいました。曲の流れや旋律は頭に入っていたので、まさに手探りで指使いを練習しました。すると、全く間違えず吹けたのです。ひとクラス50人(!?)の誰もが吹けないだろうと思っていたのに、ただ一人満点を獲得



小学校3年生の瀬戸さん(後列右端)

できました。笛が吹ける!“ふえがふえた”、ひょっとしたら天才かもしれないと思いました。(冗談)」とのこと。

その後も相変わらず楽譜は読めないままで、指使いを探して吹きながらレパートリーを増やしていった。「ちょうどその頃、NHK教育テレビの小学校3年生向けの学校放送『ふえはうたう』で活躍していたリコーダー奏者の上杉紅童さんが全国の小学校を回って演奏をされていて、自分の学校にも来校されました。その演奏を聴いたことが影響していると思います。そのうち学校一上手な児童となり、卒業式でリコーダーを演奏しました。この経験が音楽を志すきっかけとなりました」と瀬戸さんは語る。

### 半ば無理やりで始まったクラリネット人生

中学校では吹奏楽部に入部。入部当初、半年ほどはトランペットを吹いていたが、クラリネットは人気がなく、コンクールに参加するにあたり人数が足りないということが起こる。そこでトランペットからクラリネットに人を回そうということになり、先輩に半ば強制され、試しに吹いてみたら音が出てしまった。そこで、「今日から君、クラリネット」といわれ、仕方なくクラリネットを吹くようになったとのこと。

「最初は嫌々やっていたのですが、近所に住む同級生もクラリネットを吹いていたため、教えてもらっているうちに吹けるようになりました。それまでは楽譜が読めないもので感覚を頼りに吹いていたのですが、この時期になって楽譜の読み方を勉強して、見ながら演奏するようになりました。それがかえって息つぎの場所が不明確になったり、間違えることも増え、かえって緊張するようになりました。歌いやすいようなキーで書かれていて、耳馴染みのあるJ-POPの曲であっても、フラットが4つ、シャープが5つということはざらにあるので、楽譜を見ながら演奏するのは大変でした」

### 音大進学と東京生活

高校でも引き続き吹奏楽部に所属し、クラリネットに親しむ時間も益々増えていったが、本格的に音楽の道に進むつもりまではなかったようだ。ご兄弟も大学に進学しており、末っ子だった瀬戸さんは『3人も大学に行かせるのは親も大変だろう』と、当初就職

する心づもりだったとのこと。父も同じ考えだった。しかし、高校で吹奏楽部の顧問の先生から「楽器が上手いだから、音大を目指したらどうだ」と勧められたことや、親類に教育関係者が多かったことが影響し、乗り気になった母の後押しを受け、3年生の6月になって音楽大学を目指すことになる。母からはピアノも買い与えられた。

「そこまでされたら、もう頑張るしかないでしょう。“高3で降参”とばかりに、大急ぎで受験勉強を始めました。近隣に先生がおらず岡山のクラリネットの先生を紹介してもらい、電車で1時間かけて通いました。さらに入試に必要なソルフェージュ、ピアノの週3から4日のレッスンもこなしたのですが、始めたのが遅かったため苦戦しました。負けたくない一心で、毎朝ピアノを間違えずに弾けるまで練習しました。イライラしてピアノに当たったこともあります。そんな時、母から厳しく叱られることもありましたが」

努力が実を結び、武蔵野音楽大学器楽科に入学。大学では周囲との競争も激しく、ひたすら練習を重ねる日々。とてもアルバイトにまで手が回らず生活には苦労した。副科としてピアノを履修したが、毎週与えられる課題を全てクリアすることが大変で、試験前に集中レッスンを受け、ようやく乗り切ることもしばしばだった。両親も「現実を知らず音楽大学に入学させたものの、次々に試験だ、ピアノだと予想外にお金がかかる」と嘆いたようだ。



武蔵野音楽大学卒業記念コンサートの瀬戸さん(後列左から3人目)

そうしたハードな学生生活を乗り越え、1976年卒業。とはいえ、卒業したての若手演奏家に演奏のみで生活できるほどの仕事はなく、生活のため都内の私立高校に教師として4年間勤めた。その間、大学

の同級生が大阪フィルハーモニー交響楽団のオーディションに合格しプロの道へ。

「他の道を選ばず、地道に音楽に取り組んでいた者だから与えられたチャンスなのでしょう。私は教員でしたので生活に困らず済みましたが、取り残されてはいけないと、リサイタルや室内楽などの活動を続けました」と瀬戸さんは当時を振り返る。

## 新天地菰野町へ

教員生活を送ること3年あまり、瀬戸さんに転機が訪れる。大学で知り合い、伴奏もしていたピアニストの佐智子さんとの結婚である。卒業後、佐智子さんは実家に戻り、瀬戸さんは東京で教員生活を送る遠距離恋愛を続けていたが、結婚を機に退職し佐智子さんの実家がある三重県菰野町に転居する。



結婚報告に訪れた佐智子さんのご実家にて

「菰野町に住んで38年になります。ここはホテルも見られる自然豊かなところですが、人脈も土地勘も無く、初めは居場所の無い思いをしました。そこで県の工業高校で非常勤講師を1年間勤めました。当時その高校は荒れていて、入学時は40人だったクラスが2年生では27人にまで減ってしまうなんてこともありました。この時の教員生活はかなり心身に堪えて、毎日「行くぞ!」と心を奮い立たせて出勤するのですが、学校に近づくにつれ気持ちが悪くなるほどでした。ある時、同僚の教師が生徒に池に投げ入れられたことがあって、『先生もやってやろうか』と言われましたが、「池はいけませんね」と冗談を言ってやりすごしました」

そうしたなか、瀬戸さんは音楽に関わる仕事を開

拓すべく、ヤマハで音楽指導の仕事 시작했다。リコーダーの腕前を活かし、小中学校のような大口の顧客向けの特典として指導を行うというもので、小中学校はもちろん幼稚園にも出向き、三重、愛知、岐阜、滋賀、富山とあちこちを飛び回る生活を送った。

「さすがに幼稚園児だと10分間と集中力が持ちませんし、始めから泣いている子どももいます。そういう子たちの興味をいかに惹きつけるか工夫しました。ある時、浜島町（現・志摩市浜島町）の幼稚園でピアノの指導を頼まれたことがありました。汗が吹き出るほど緊張しましたが、ヤマハの看板を背負っているので、当然やりきらなければなりません。午前中は子どもたちの指導を、午後からは先生向けの指導を頼られました。先生達は筆記用具を手に、どんな指導が受けられるのか待ち構えていましたが、まず筆記用具をしまってもらいました。3時間の指導のうち、ピアノの技術指導はわずか3分、残りの時間で自分の体験談を話しました。お土産にアワビをズッシリといただき、責任の重さもズッシリと感じ、恐縮したことを覚えています」

## セントラル愛知交響楽団の歩み

ヤマハで講師を続ける傍ら、少しずつ名古屋フィルハーモニー交響楽団をはじめ近隣オーケストラなどからエキストラ演奏の声がかかるようになり、クラリネットの演奏活動を本格的に再開。活動を通じて知り合った仲間とともに、1983年ナゴヤシティ管弦楽団を立ち上げる。立ち上げ当初は、演奏家達で運営を行っていた。コンサートの進行を統括するステージマネージャーや楽譜を管理するライブラリアン、広報やフロント業務を担う事務局員などそれぞれ専属のスタッフが揃う現在の体制では考えられないが、演奏家自身で全て切り盛りしていた。

「今なら、ステマネやスタッフがやってくれているような楽譜の整理や楽器の運搬、編曲なども自分たちで全てこなしました。軌道に乗るまでに10年はかかりました。学校公演が活動の中心だったから、どうやったら生徒が笑ってくれるか、どうしたら惹きつけられるか演奏家同士競争しました。特に楽器紹介をする時などは、クラリネット単体で前面に出られるので、とりわけ工夫しました。活動を続けるうちに、どう運



営していくべきかという問題に直面しました。やはりプレイヤーだけでは限界があり、運営のプロと一緒に仕事をするべきということになりました」

そこで1994年、当時名フィルの理事兼事務局長として活躍していた故・野々山享さんを、瀬戸さんが名フィルにエキストラでよく出演していた縁があったことから、事務局長として招へいすることとなった。野々山さんは名古屋少年少女合唱団や名フィルを立ち上げた経験豊富な運営のスペシャリストである。当時は財政的にとても厳しかったとのことだが、瀬戸さんや野々山さんをはじめとした楽団の仲間達の試行錯誤のもと、「定期演奏会をやったほうがよい」、「第九はやったほうがよい」「賛助会員を増やしていこう」などと活動の幅を拡げ、1990年から始まった岩倉市からの練習場の無償借用をはじめ、支援の輪も広がっていった。



セントラル愛知交響楽団をともに支えた野々山享さん

そして1997年、前年に愛知県芸術文化選奨文化賞を受賞したことを契機にセントラル愛知交響楽団に名称を変更。定期演奏会、コンチェルトシリーズ、「第九」演奏会といった自主公演はもちろんのこと、バレエ、オペラ、ミュージカル等の依頼演奏にも数多く参加し、楽団の評価も高まっていく。2000年に日本オーケストラ連盟への加入が認められ、名実ともにプロのオーケストラとして認知された。2009年には任意団体から一般財団法人へと移行し、毎年約100回の公演をこなしている。2007年の中国・内蒙古自治区、2009年のタイ・バンコク（文化庁国際交流支援事業）、など海外公演も成功させた。こうした取り組みが評価され2005年には名古屋市芸術奨励賞、2007年には名古屋音楽ペンクラブ賞に輝いた。

## 今だから感じること

瀬戸さんは、2012年9月の第122回定期演奏会をもって、セントラル愛知交響楽団のクラリネット奏者を引退。ナゴヤシティ管弦楽団の発足以来、楽団と歩み続けた30年だった。引退後も、常務理事として事務局から楽団を支えている。

「私は30年に渡ってプレイヤーを務め、事務局に入りました。プレイヤー時代は演奏に専念していればよかったのですが、今はそうはいきません。将来を見据えて動いているので、1回1回の演奏会ごとで終わったという感じがしないのです。それと引退した今だからこそ痛感しているのが、人前で演奏する時、音楽っていいものだな、音楽をやっているよかったなということです。終わった後、今日は受けがよくなかったな、どうしたらよかったかなと、今でも工夫を続けています。喜んでもらうためにやっているからこそ、持っているものを全て出しきることを意識しています。高校教師の経験、小・中学校や幼稚園で指導したことなど様々な経験が今に活かしています。人生に無駄なことなど無いのですね」

豊かな経験をもとに、にこやかに語られた瀬戸さんの音楽人生は、これからも歩みを続けていくことだろう。

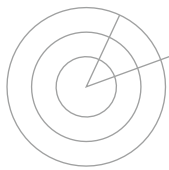


セントラル愛知交響楽団の仲間と行った病院での慰問コンサート



楽団クラリネット奏者として最後の公演となった第122回定期演奏会

# ピックアップ



## 好評!5/RホールのY♡SEコン

——劇場（音楽ホール）の使命とは、独自の作品を制作することで舞台人を育成し、上演を通して地域の文化を活性化することである。

JR千種駅至近、5/Rホールの「Y♡SE(寄席)コンサート」(以下・寄席コン)が好評だ。伊藤直樹支配人らの考案で2017年10月にスタートした劇場の主催公演。毎月最終木曜日に開催、毎回4組の出演者が、各45分間の枠で演奏などのパフォーマンスを披露する。



カルテット・パソア・トーン(2017.11.24)

毎回の番組は①午後3時45分～②午後4時45分～③午後6時30分～④午後7時30分～の4ステージ。②と③の間には「中入り」(午後5時30分～6時30分)があり、ホール近隣の飲食店(18店舗)では、各種の割引を受けることができる(コンサートチケットの提示が必要)。観客は、入場料(全自由席)1,500円(当日2,000円)の入場料で、4番組すべてを見ることができる。出入りは自由で、①を見た後外出し、戻って④を見ることが出来る。

寄席コンは、スタートから現在(2019年7月末日)までに22回、88組の出演者が登場した。多くを占めるのはクラシックの器楽、声楽演奏だが、ジャズやタンゴ、和楽器、和太鼓の演奏、演劇や朗読を交えたパフォーマンスも度々登場する。伊藤支配人は「演奏内容について、私の方から希望や注文を出すことは一切ありません。45分以内であれば、何をやっていただいても構いません」と奏者に寄り添う。ただし、出演者には「これまでに有料の



仏典童話より音楽劇「猿の橋」(19.3.28)



魅せる和太鼓奏者 山川慎平(19.1.31)

公演に出演したことのあるアーティストであること」の条件が付く。

### 多種多彩な演奏、演劇や朗読も

演奏形態も多彩で、トランペット3本とピアノによる4重奏、ハープのデュエット、チェロのデュエット、ソプラノと2台のマリンバのトリオ、アコースティックギターとエレキギターの競演、クラリネットの4重奏、娘(ピアノ)と母(絵画)の共演など、異色のアンサンブルが体験できるのも、寄席コンならではの。

バロックリユート奏者の藤間勘翠、ピアニストの石川馨栄子、クラリネット奏者のつつみあつき、ソプラノ歌手の田中由美子ら、ホールの魅力、寄席コンのシステムに共感し、すでに複数回参加しているアーティストもいる。

「寄席コン」スタート直後は、出演者関連の客がほとんどで、関係する番組だけを見て帰るケースが多かったが、最近は2、3番組を見る客が大半。入場料が安いこともあり、出演者に関係なく毎月来場する「常連さん」も増えた。終演後のロビーで、出演者と歓談できるのもうれしい。これも5/Rホールならではの特典だ。

出演者にもメリットは多い。45分のステージとはいえ、ノルマは売れたチケットの半額(750円)を劇場側に支払うのみ。たとえばチケットが20枚売れば750円×20の15,000円を劇場に支払うだけで45分のステージに出演でき、15,000円の出演料を受け取ることができるのである。まさに5/Rホールは、若いアーティストに発表の場を提供し、地域の文化振興に貢献しているのである。

Y♡SEコンサートについての問い合わせはTel052(734)3461。ウェブサイトは「5/Rホール」で検索。

(上野 茂)

# いとしの サブカル

## 文化の保存、妖怪の保存

あいち妖怪保存会 共同代表

しまだ なおゆき  
**島田 尚幸**

愛知県名古屋市生まれ。私立東海中学校 教諭（理科）。

怪談・妖怪・文学などを題材とした講演会・イベントに出演。企画立案にも携わる。雑誌等でコラムも執筆。『愛知妖怪事典』（あいち妖怪保存会編著 一柳書房）

我々あいち妖怪保存会は“妖怪”を“保存”している。

といっても、実際に捕まえてきて飼育したり、ホルマリンに漬けたり、冷凍してみたり、乾燥させてみたりして保管するわけではない。

では、何を保存しているのかというと、端的に言えば、「情報」を保存している。地域に残る様々な「妖しいこと」「不思議なこと」などの情報を集め、それを素材に、いろいろな人たちが愉しむことのできる下地を作っている。

我々が活動するきっかけは、もともと東日本大震災であった。アンソロジストの東雅夫氏を中心に、全国のおばけ好きがそれぞれの土地で開催し、支援に充てた「ふるさと怪談トークライブ」。これが、保存会のスタート地点であった。

先の震災の際、たくさんの尊い命が喪われた。住んでいた家、通っていた学校、勤め先が無くなったという人も多い。いろいろなものが失われていく中で、「文化」というものも、また深く大きな傷を負った。その土地に住んでいた人がいなくなる。土地の記録を残した資料が失われる。文化はとても簡単に、それでいてとても大きく変容する。祭礼、芸能、工芸、産業…伝える人がいる、もしくは伝える物がある、伝える場がありさえすれば、なんらかの形で残っていくことはできるだろう。しかし、そうでないものは形なく消えていく。

常々「文化」は、人の営みの“上澄み”のようなものではないか、と筆者は考えている。そこに生きる人たちが繋がり、関わり合う中で生まれる“上澄み”。「地域に伝わる話」も、この上澄みのほんの一滴と捉えることができる。たとえそれが失われたからといって、特段大きな損失が出てくるというものではない。教訓譚などであれば、まだ残りやすいのかもしれないが、我々の扱っている「妖しい」話など、まさに取るに足りない最たるものであろう。でもそんな

な取るに足りない、粗野なものだから無くなっても良いかという、決してそうは思わない。くだらないものだから、見えてくるものも少なからずある。怪異譚や妖怪譚を扱っていると、いろいろなものが見えてくる。恨み、嫉み、怒り、驕り、死に対する恐怖もあれば、美に対する畏れもある。また、説明のつかない常ならぬ事象を、何らかの形で理解できうる範囲に落とし込もうとする術が見える場合もある。妖怪資料を扱う中で浮かび上がるのは、「妖怪」ではなく「人間そのもの」であると言っても良いのかもしれない。

人のいるところに、妖怪は湧く。

“曰く”は人間が作るものであり、人のいないところ、想像の及ばないところに妖怪は湧きようがない。どんなに時代が変わっても、この先も妖怪は、ひっそりと湧き続けるだろう。この先もそんな妖怪を集めて、保存し、その楽しみを色々な人たちと共有していければと考えている。



しおがま  
中川区・鹽電神社に祀られる河童の神様 無三殿さん



初めてでも楽しめる  
解説・字幕付き!

# 人形浄瑠璃 文楽



2003.11  
BUNRAKU  
文楽  
UNESCO無形文化遺産  
Intangible Cultural Heritage

【昼の部】  
生写朝顔話  
あかし ふなわか  
明石船別れの段  
わら ぐすり  
笑いの薬の段  
やど や  
宿屋の段  
おほ い がわ  
大井川の段

【夜の部】  
ひらかな盛衰記  
まつえもん うち  
松右衛門内の段  
さかろ  
逆櫓の段  
日高川入相花王  
わた は  
渡し場の段

2019年10月4日金

【昼の部】 開演時間 14:00 (終演予定16:45)

【夜の部】 開演時間 18:30 (終演予定21:00)

※いずれも開場は開演時間の30分前

電光表示板による字幕付きですので初めて鑑賞する方でもお楽しみいただけます。

【生写朝顔話】【ひらかな盛衰記】…… 写真：青木信二 【日高川入相花王】…… 写真：滝澤めぐみ

## 名古屋市芸術創造センター

全指定席

(地下鉄東山線「新栄町」駅①番出口より北へ徒歩3分)

(地下鉄桜通線「高岳」駅③番出口より東へ徒歩5分)

一般	[一階席] 4,700円	割引	[一階席] 4,200円
	[二階席] 2,900円		[二階席] 2,400円

・友の会会員  
・大学生以下  
・障がい者等

※事業団友の会会員(前売りのみ)、大学生以下(前売りのみ)、障がい者手帳等をお持ちの方は割引価格でご購入いただけます。購入時に、会員証、学生証、障がい者手帳等をご提示ください。障がい者の方は、ご本人と付添1人まで割引価格でお求めいただけます。ほかの割引との併用はできません。\*未就学児の入場はご遠慮ください。

【主催】公益財団法人 名古屋市文化振興事業団 / 公益財団法人 文楽協会 【後援】文化庁 【助成】芸術文化振興基金 / 朝日新聞文化財団

頼もしい味方をお探しですか？



集客・販促プランナー



アートディレクター



印刷コンサルタント

TEL(052)331-8881

〒460-0021 名古屋市中区平和2-9-12 http://www.kp-c.co.jp

WE MAKE YOU MOVE  
感動をあなたへ

20Hz ← → 20kHz

この領域を超えて最高のパフォーマンスを。



舞台音響 / 映像設備  
設計・施工・保守・特注品製作・業務用機器販売

お客様に寄り添った先進のAVシステムを提案する  
株式会社 エーアンドブイ  
〒464-0846 愛知県名古屋市中区千代木町二丁目98  
TEL/052-761-5400 FAX/052-761-0909

## 舞台VTR映像専科

ステージの感動を格調高い映像で追求します。



ビデオソフトの企画制作

エーワン.ビデオ.システム  
TEL (052)896-2256 FAX (052)896-4100

「ナゴヤ劇場ジャーナル」ではサポート会員を募集しています。

## ナゴヤ劇場ジャーナル

◎年間6,480円で毎月お手元にお届けいたします。  
◎毎月24,000部発行 ※東海地方の演劇・舞踊・音楽公演・ホール、DM等にて配布

公演・発表会の受付から制作業務全般まで、何でもご用命下さい

MANAGEMENT PRO 株式会社マネージメント・プロ  
〒461-0004 愛知県名古屋市中区葵2-11-22 アバンテージュ葵305  
TEL (052)508-5095 FAX (052)508-5097  
URL http://www.mane-pro.com

業務内容 ①舞台の企画・制作マネージメント ②イベントの企画制作  
③芸術団体のコンサルティング ④舞台・イベントの運営

